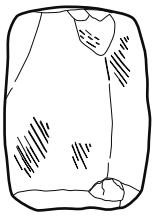
玉名市文化財調査報告　第 52 集

# 年の神遺跡

玉名市岱明町野口における宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告



2023
玉名市教育委員会

# はじめに

玉名市は熊本県北西部に位置し、菊池川下流域に属しています。旧石器時代から現代までの長い歴史を持った地域で、古くから温泉のまちとして知られています。

玉名市教育委員会では、様々な開発行為に基づいた埋蔵文化財調査を実施しており、その成果を公表することによって、玉名市の教育・文化の発展に寄与するものと考えています。

本書は、玉名市岱明町で実施した年の神遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。発掘調査におきましては、各方面から多くの方々に多大なご協力とご尽力を賜りました。改めてここで厚く御礼を申しあげます。

令和５年３月

玉名市教育委員会
教育長　福島　和義

# 例　言

１　本書は玉名市教育委員会が令和４年度に実施した年の神遺跡の発掘調査報告書である。

２　発掘調査は玉名市教育委員会文化課が実施した。

３　発掘調査は蓜父雅史、石松 直が担当し、報告書の執筆と編集は石松が担当した。

４　現地調査での撮影記録については、田中、蓜父、石松が行った。

５　現地調査での土色の記録は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 / 新版標準土色帖を用いて目視による観察を行っている。

６　遺構の記号は文字表記（例：竪穴建物）の後にＳ番号を付与している。

７　整理作業は、玉名市文化財整理室で実施した。

８　遺物の実測は蓜父、石松が行い、トレースは石松が行った。

９　遺物実測の縮尺は基本的に土器が 1/4、石器・石製品が 1/2 であるが、任意に縮尺を変更しているものについては別記している。

10　出土遺物や調査記録は玉名市教育委員会文化財整理室にて保管している。

11　出土した遺物のうち、勾玉の材質鑑定については、熊本大学文学部准教授 大坪志子氏に、石権（天秤権）については福岡大学名誉教授武末純一氏に御教示いただいた。

# 本文目次

はじめに　例言 …… i
本文目次　挿図目次　写真目次 …… ii
第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1
第２章　地理的・歴史的環境
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 1
第３章　調査結果
　第１節　基本土層と遺構面の解釈 …… 2
　第２節　検出された遺構 …… 4
　第３節　包含層出土遺物について …… 9
第４章　まとめ …… 12
参考文献 …… 12
報告書抄録・奥付

# 挿図目次

Fig.1　玉名市の位置と遺跡範囲……2
Fig.2　今回の調査位置……2
Fig.3　基本土層と遺構面の解釈（模式図）……2
Fig.4　年の神遺跡遺構平面・断面図 (1/200・1/100)…3
Fig.5　竪穴建物 S-013 平面・見通し断面図 (1/100) ……4
Fig.6　竪穴建物 S-013 出土遺物（３のみ 1/1）……4
Fig.7　竪穴建物 S-010 平面・見通し断面図 ( 1/100) ……5
Fig.8　竪穴建物 S-010 出土遺物 ……6
Fig.9　土坑 S-015 出土遺物 ……7
Fig.10　土器集積遺構 S-006 出土遺物 ……7
Fig.11　溝状遺構 S-012 平面・断面図 (1/100)……8
Fig.12　溝状遺構 S-012 出土遺物 ……8
Fig.13　ピット S-009 出土遺物 (1/3)……9
Fig.14　ピット S-023 出土遺物 (1/4)……9
Fig.15　包含層出土遺物……10

# 写真目次

PL1　土坑 S-015 出土獣骨 ……7
PL2　ピット S-009 遺物出土 ……9
PL3　ピット S-023 遺物出土 ……9
PL4　包含層出土遺物赤彩土器……10
PL5　調査区全景……13
PL6　竪穴建物 S-013 検出 ……14
PL7　竪穴建物 S-013 検出 ……14
PL8　竪穴建物 S-013 断面 ……14
PL9　竪穴建物 S-013 完掘 ……14
PL10　竪穴建物 S-014 検出 ……14
PL11　竪穴建物 S-014 検出 ……14
PL12　竪穴建物 S-010 遺物出土 ……14
PL13　土器集積遺構 S-006 遺物出土……14
PL14　土坑 S-015 断面 ……15
PL15　土坑 S-015 完掘 ……15
PL16　竪穴建物 S-010 完掘 ……15
PL17　竪穴建物 S-010 完掘 ……15
PL18　溝状遺構 S-012 検出 ……15
PL19　溝状遺構 S-012 完掘 ……15
PL20　作業風景遺構検出……15
PL21　作業風景遺構掘削……15
PL22　土器集積遺構 S-006 出土遺物 ……16
PL23　竪穴建物 S-010 出土遺物 ……16
PL24　竪穴建物 S-013 勾玉 ……16
PL25　竪穴建物 S-010 磨製石剣 ……16
PL26　竪穴建物 S-010 石権（天秤権）……16
PL27　ピット S-023 出土砥石 ……16
PL28　紡錘型土弾……16
PL29　ピット S-009 模倣土師器 ……16

# 表目次

Table1　遺物観察表……11

# 第１章　　調査に至る経緯と経過

## 第１節　調査に至る経緯と経過

本調査は、玉名市岱明町野口 2466 － 1 において宅地造成工事が計画されたことに起因する。当該開発計画地は周知の遺跡である年の神遺跡の範囲に属していたため、令和３年 12 月３日に確認調査を実施した。その結果、竪穴建物といった遺構や多くの弥生土器を確認したため協議を行い、工事主体者との間で協定及び委託契約を締結した。令和４年 1 月 25 日付けで、文化財保護法第 99 条の規定に基づき発掘調査の通知を行った。開発に伴い遺構の保存が難しい範囲であった 88.8㎡については発掘調査を実施することとし、令和４年２月１日から発掘調査を行い、令和４年３月 11 日に現地作業を終了した。整理作業と報告書作成は令和４年８月１日から開始し、令和５年３月 17 日に完了した。

## 第２節　調査体制

発掘作業及び整理作業・報告書の作成には以下の体制により実施した。

発掘作業　（令和３年度）
調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　福島和義
調査総括　教育部長　藤森竜也
　　文化課長　伊藤恵浩
　　文化課長補佐兼文化財係長　田中康雄
調査担当　主査　蓙父雅史
　　技術主任　石松　直
発掘作業員　緒方雄二　　村上厚生　　村松美樹
　　吉川ゆかり　寺本哲也　　住友須美子
　　島村倫子　　洲崎洋子　　松本典子

報告書作成作業　（令和４年度）
調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　福島和義
調査総括　教育部長　藤森竜也
　　文化課長　平川裕一
　　文化課長補佐兼文化財係長 田中康雄
整理担当　主査　蓙父雅史
　　技術主任　　石松　直
整理作業員　北嶋百合子　藤井めい子
調査指導　能登原孝道　宮崎敬士　大坪志子
　　武末純一　（敬称略）

# 第２章　地理的・歴史的環境

## 第１節　地理的環境

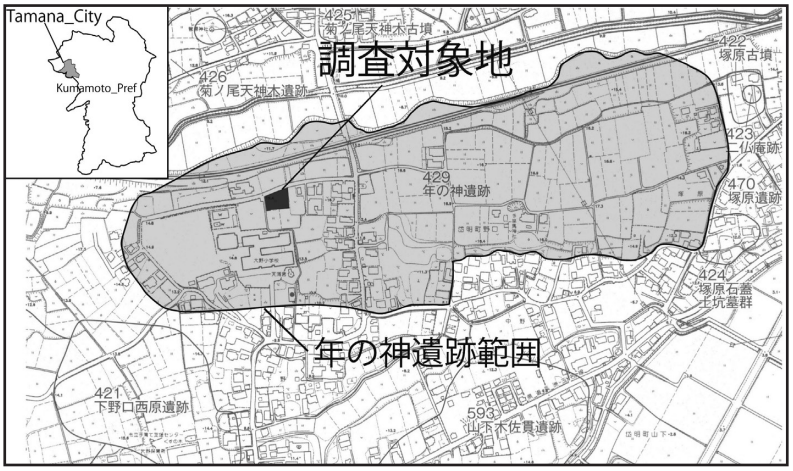
玉名市は熊本県北西部に位置する都市で、人口約６万４千人（令和４年 12 月現在）、面積が約 152 平方キロメートルを有している。一級河川である菊池川が市を南北に分けるように、内海である有明海に注いでおり、菊池川周辺では支流である木葉川や繁根木川によって形成された堆積平野が広がり、肥沃な土壌を生んでいる。市の南東側には阿蘇山より火山活動が古く、馬蹄型カルデラで有名な金峰山がそびえている。北側には筒ヶ岳がそびえ、そこから延びる小岱山地や台地の一つに年の神遺跡が存在している。

## 第２節　歴史的環境

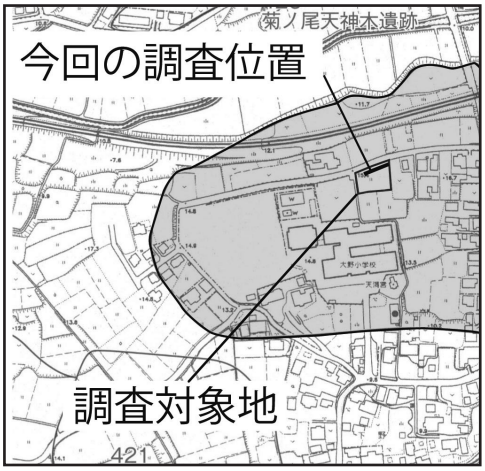
玉名市は旧石器時代から連綿と人々の生活の痕跡を見ることができ、西照寺備中遺跡ではナイフ型石器が発見されている。縄文時代には有明海沿岸に尾崎貝塚などの貝塚が点在している。弥生時代に入ると遺跡の数が急速に増え、前期では斎藤山貝塚をはじめ、中期には大きな集落や甕棺墓が確認されており、塚原遺跡や今回調査を行っている年の神遺跡も含まれている。弥生時代後期には拠点集落であった高岡原遺跡や大原遺跡などが出現する。古墳時代に入ると山下古墳や院塚古墳といった前方後円墳が形成されており、後期に至ると大坊古墳や永安寺東古墳や永安寺西古墳といった装飾古墳が築造され、この地域特有の文化が見られる。中世に入ると大野別府や大野荘といった荘園が数多く形成された。近世に入

ると玉名は熊本藩に属し、高瀬町を中心に大坂へ向かう米の積み出し拠点として発展を遂げた。しかし、近代に入り明治 10 年には西南戦争の激戦地の一つとなり、高瀬町周辺は焼損している。それ以降、九州鉄道株式会社（現 JR 九州）により鹿児島本線が建設され、平成に至ると九州新幹線が開業している。

今回の調査は、弥生時代中期から後期を中心とした年の神遺跡である。年の神遺跡は岱明町野口の友田川左岸の台地上に広がる遺跡で、甕棺墓や支石墓が多く確認されていることで知られている。中でも支石墓の甕棺からゴボウラ貝製の腕輪７点（市指定有形文化財）が出土している。




（Fig. 1）玉名市の位置と遺跡範囲




（Fig. 2）今回の調査位置

# 第３章　調査結果

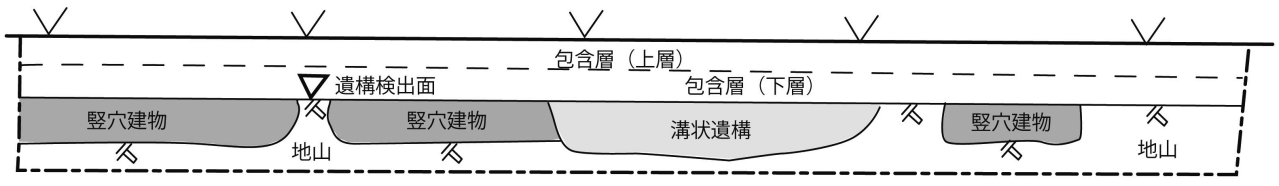
## 第１節　基本土層と遺構面の解釈

今回の調査は確認調査の結果から、包含層の厚さや遺構面の深さを土層断面から確認することができていたので、おおよそ見当は付いていた。

基本土層は以下のように解釈している。表土から直下の層約 20㎝までを遺物包含層として認識し、一部で地山面が見えているので、そこで遺構検出を実施している。遺物包含層は、２層に分かれており、上層の土色が 7.5YR ２/2 黒褐色土、下層が 7.5YR ２/1 黒褐色土である。包含層内に弥生時代の土器や黒曜石製の石器や剥片を多く含んでおり、古代の土師器が混入していることから古代以降に大規模な整地を行ったものと思われる。

遺構面は古代から中世の包含層を除去した後、地山である 7.5YR7/8 黄橙色粘性土が見える高さで黒褐色が複雑に切りあっているため遺構検出を行った。

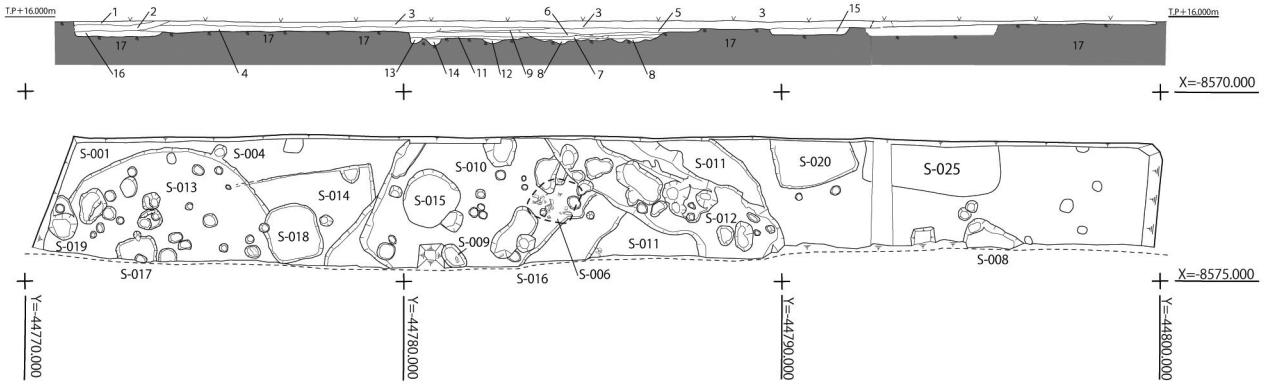
検出の結果、同じような土色が複数確認され、遺構の切りあいの判別は非常に難しく遺構検出の精査は不十分であった。また、ピットが数多く検出され、遺構内から須恵器の模倣土師器坏などが出土していることから掘立柱建物等の存在することも考えられるが、今回の調査では明確に検出することはできなかった。



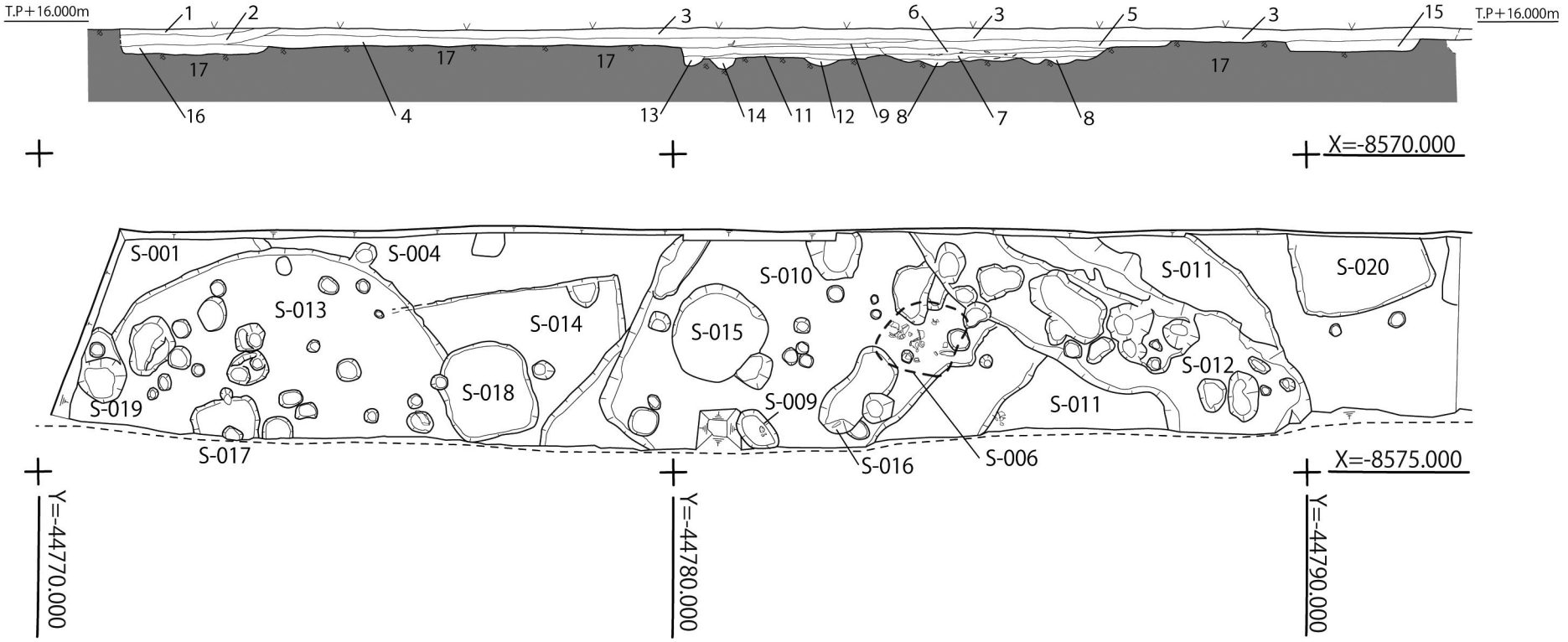

（Fig. 3）基本土層と遺構面の解釈（模式図）

## 土層注記

1. 7.5YR2/2黒褐色土（しまり弱く、粘性強い、径5㎜位の角礫を多く含む）
2. 7.5YR2/1黒褐色土（しまり弱く、粘性１より強い、白色　角礫を多く含む）
3. 7.5YR3/2黒褐色土（ややしまりあり、粘性弱い、土器小片を粒状に多く含み、砂粒混じる（弥生時代後期以降の包含層）
4. 7.5YR3/1黒褐色土（３よりしまり、粘性弱い、土器小片を粒状に少量混じる（弥生時代中期以降の包含層）
5. 10YR3/3暗褐色土（しまり、粘性ともに強く、白色砂粒、褐色土を粒状に混入する。土器片少量混じる。S11埋土）
6. 10YR4/1灰黄褐色土（しまり強く粘性あり、角礫、土器片（朱彩）混じる）（S12埋土）
7. 10YR3/2黒褐色土（しまり、粘性強い、砂粒・炭化物・土器片少量混じる）（S12埋土）
8. 10YR3/3暗褐色土（しまり、粘性強い、褐色土をブロック状に含む）（S12埋土）
9. 10YR3/4暗褐色土（しまりあり、粘性あり、砂粒砂少量含む）（S10埋土）
10. 10YR3/3暗褐色土（しまりあり、粘性あり、土器小片含む）（S10埋土）
11. 10YR4/2灰黄褐色土（しまりあり、粘性あり、炭化物微量含む）（S10埋土）
12. 10YR3/3暗褐色土（しまりあり、粘性あり、S10埋土）
13. 10YR3/2黒褐色土（しまりあり、粘性弱い、褐色土を微量含む）（S10埋土）
14. 10YR3/1黒褐色土（しまり弱く、粘性あり炭化物・褐色土粒状に少量含む）
15. 10YR3/3暗褐色土（しまりあり、粘性あり、砂粒、褐色土を粒状に多く含む。S20埋土）
16. 10YR2/2黒褐色土（しまりあり、粘性強い土器小片含み、炭化物少量混じる）
17. 7.5YR7/8黄橙色土（しまり、粘性強い、基盤層、径1㎜から2㎜の白色角礫含む




年の神遺跡遺構配置図・断面図(1/200)




年の神遺跡遺構配置図・断面図(1/100)

（Fig. 4）年の神遺跡遺構平面図・断面図（1/200）（1/100）

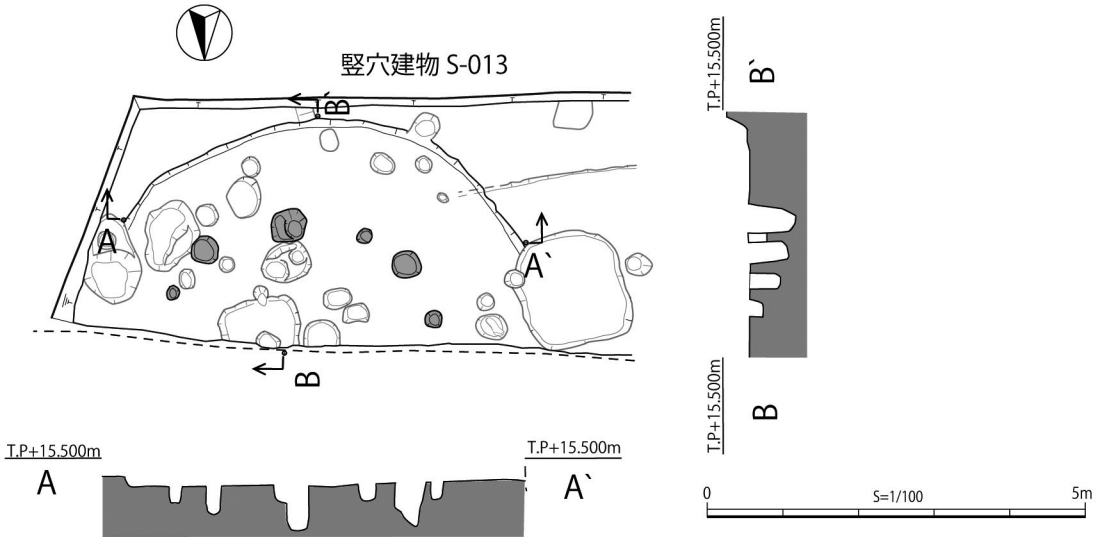
## 第２節　検出された遺構

今回の調査では、竪穴建物５棟、溝状遺構１条、土坑５基、ピット 40 基を検出した。

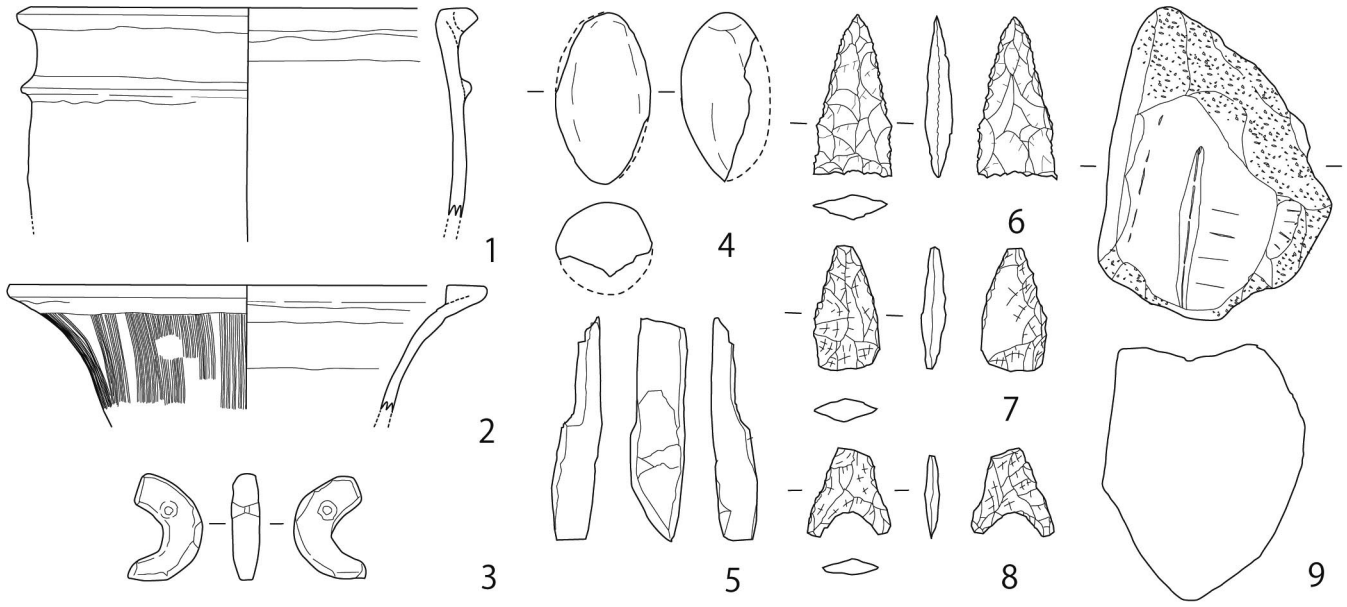
**竪穴建物 S-013**

調査区東端で検出した竪穴建物である。円形ないし楕円形の形状を呈しているが、遺構は調査区外にも広がり、竪穴建物 S-014 や土坑 S-019 に切られているため詳細な形状は不明である。さらに遺構の上部は落ち込み状遺構 S-001 に切られており、遺構の埋没以降に何らかの削平があったものと想定している。

竪穴建物を構成する遺構としてピットを検出している。類似した遺構が塚原遺跡でも検出されている。当遺構では、炉や周壁溝は確認できていない。




（Fig. 5）竪穴建物 S-013 平面図・見通し断面図（S=1/100）




（Fig. 6）竪穴建物 S-013 出土遺物（３のみ S=1/1）

出土遺物は弥生土器（1）（2）･土製品（4）･石器（6）（7）（8）･磨製石器（5）･石製品（3）（9）である。弥生土器は甕と壺が出土している。磨製石器は材質が層灰岩の片刃石斧であり、打製石鏃の材質は黒曜石や安山岩である。

特筆する遺物として、土製品の紡錘型土弾（4）が1点と、勾玉（3）石製品（砥石）（9）が出土している。土弾は、長さ 4.5㎝、幅 2.5㎝で全体の 1/3 程欠損している。勾玉は長さが 1.5㎝、幅が 0.5㎝で、材質は熊本大学文学部准教授大坪志子氏によると、材質はクロム白雲母製である。石製品は産地が大牟田産の砂岩と思われ、砥石として使用した可能性がある。

**竪穴建物 S-014**

竪穴建物 S-014 は長さが 3.5 m以上の方形の形状である。遺構上部は削平され、竪穴建物を構成する他の遺構や遺物は確認できなかったため詳細は不明であるが、竪穴建物 S-010 に西側部分は切り取られているので S-010 より古い遺構といえる。

**竪穴建物 S-010**

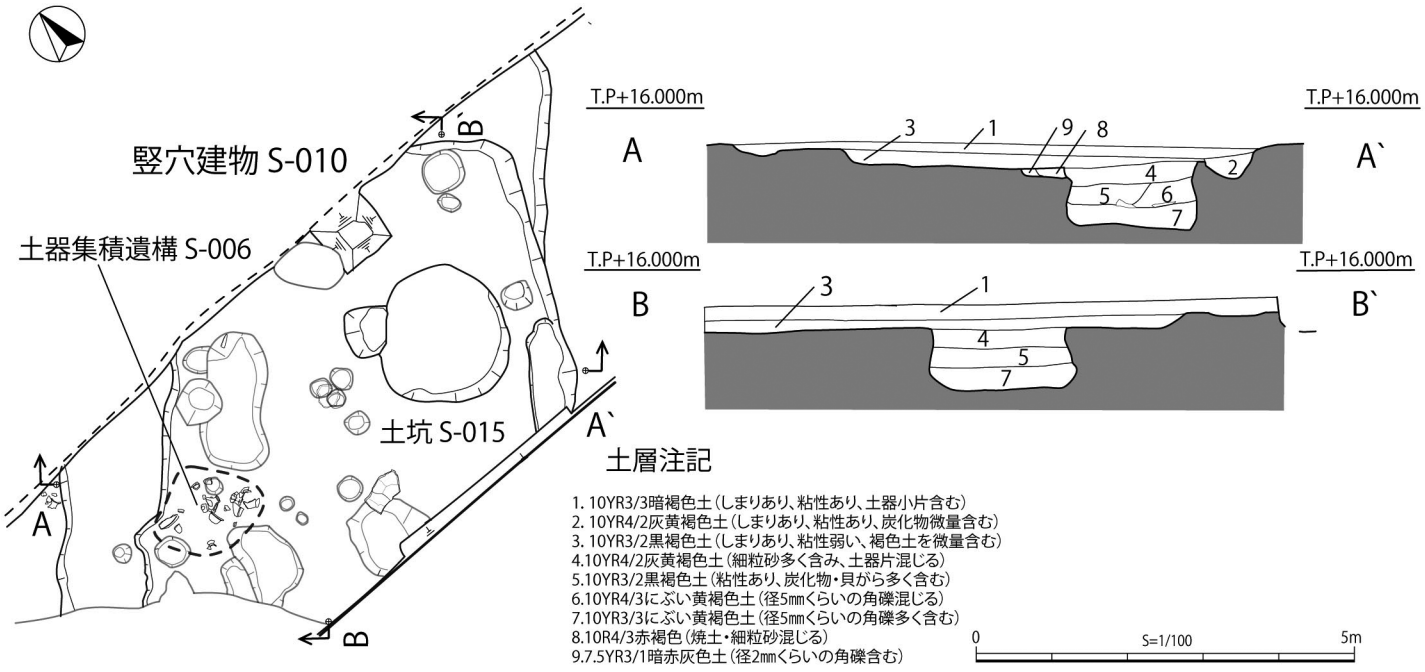
竪穴建物 S-010 は長径５m以上、短径 5.5 mの隅丸長方形の形状を呈している。切り合いが発生しているので別の遺構の可能性も考えられるが、ひとつの遺構として捉える。構成される遺構は、ベッド状遺構・土坑・炉・周壁溝・土器集積であった。なお、土坑 S-015 と土器集積 S-006 については別遺構として捉えているが、今回の報告では併せて報告する。

ベッド状遺構は竪穴建物を取り囲むように凹型の形状を呈しているが、南側は調査区外なので全体の形状は不明である。先述のとおり、別の竪穴建物の可能性もある。

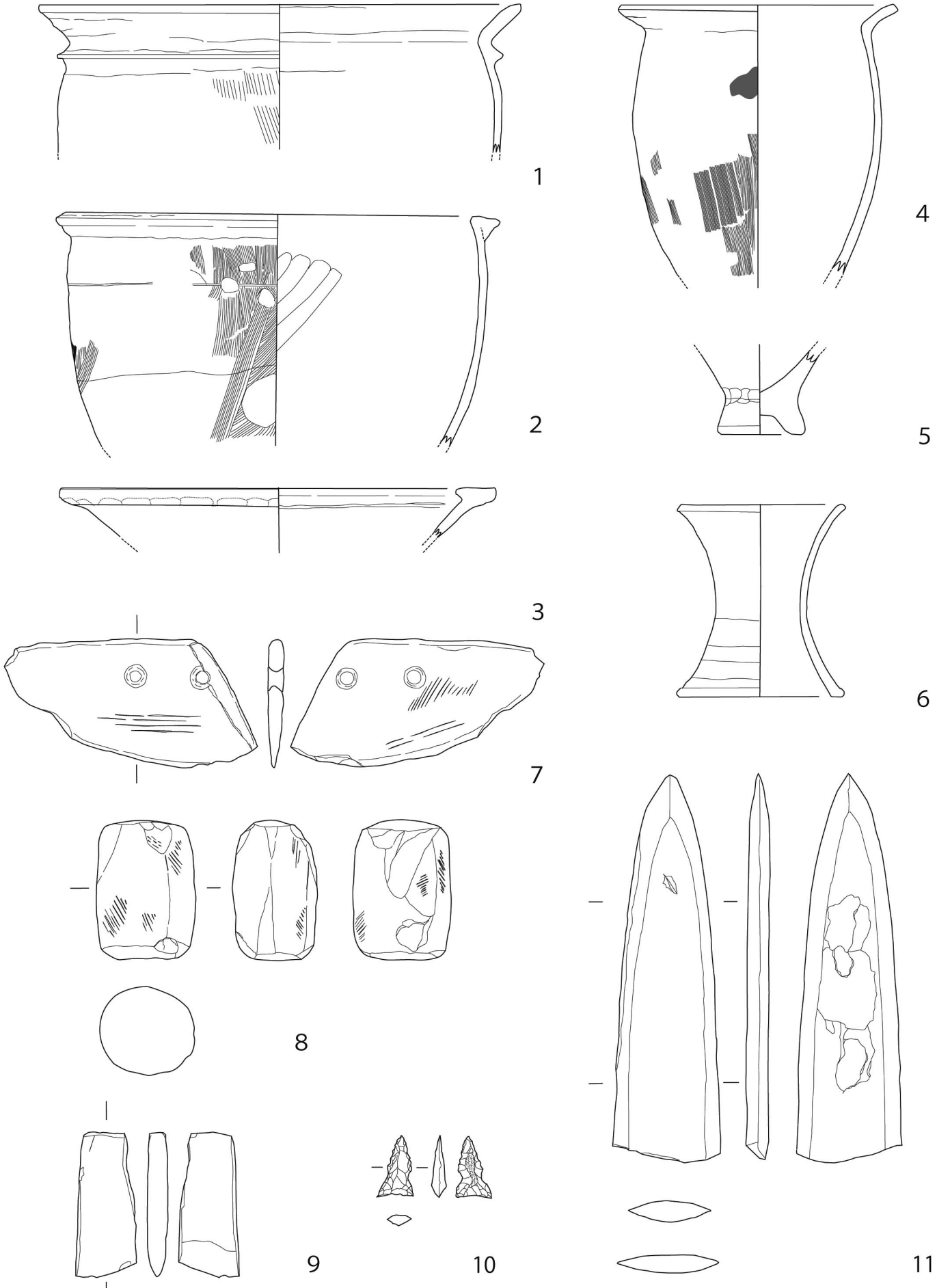
床面で検出された土坑 S-015 は直径約 1.3 m、深さは約 0.7 mの円柱状の形状を呈している。埋土は黒褐色の礫交じりで非常にやわらかいシルトで、出土遺物は弥生土器の甕･壺･鉢･磨製石斧をはじめ、骨や貝殻といった動物遺体や炭化物が数多く出土しており、廃棄土坑と考えられる。

土器集積 S-006 は竪穴建物 S-010 と重複する遺構であるが、明確に堀方は区別できていないため、ここでは併せて報告する。遺構からまとまった弥生土器が出土しており、器種は甕・壺・高坏・器台である。

炉は直径 0.6m の楕円形の形状を呈している。遺構の深さは 0.14 mで、一部を土坑 S-015 に切り取られており、炉の周辺は赤褐色の表面硬化が見られる。




（Fig. 7）竪穴建物 S-010　平面図・見通し断面図（S=1/100）



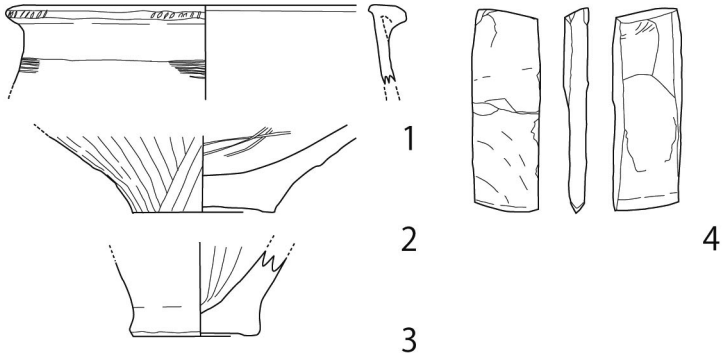

（Fig. 8）竪穴建物 S-010 出土遺物

出土遺物は弥生土器（1から6）と石器（7）（9）（10）と石製品（8）（11）で、弥生土器の器種は甕・壺・器台である。石器は石鏃と立岩産の輝緑凝灰岩製石包丁と層灰岩製の片刃石斧である。石製品は円柱状石製品や石剣である。

また、（8）については、大きさは5.4㎝×3.8㎝で重さは118ｇで一部欠損しており、材質は滑石製で用途としては石権（天秤権）と思われる（後述）。石剣（11）が床面上から出土しているが、土坑の直上なので削平された土坑の遺物とも考えられる。材質については菫青石ホルンフェルスの可能性を能登原孝道氏が指摘している。

**土坑 S-015**

土坑 S-015 の出土遺物は弥生土器と磨製石器と動物遺存体である。弥生土器は甕（1）（3）と壺の底部の破片（2）が出土しており、磨製石器は層灰岩製の片刃石斧であり、動物遺存体は獣骨と貝が出土しており、貝は牡蠣の割合が多い。

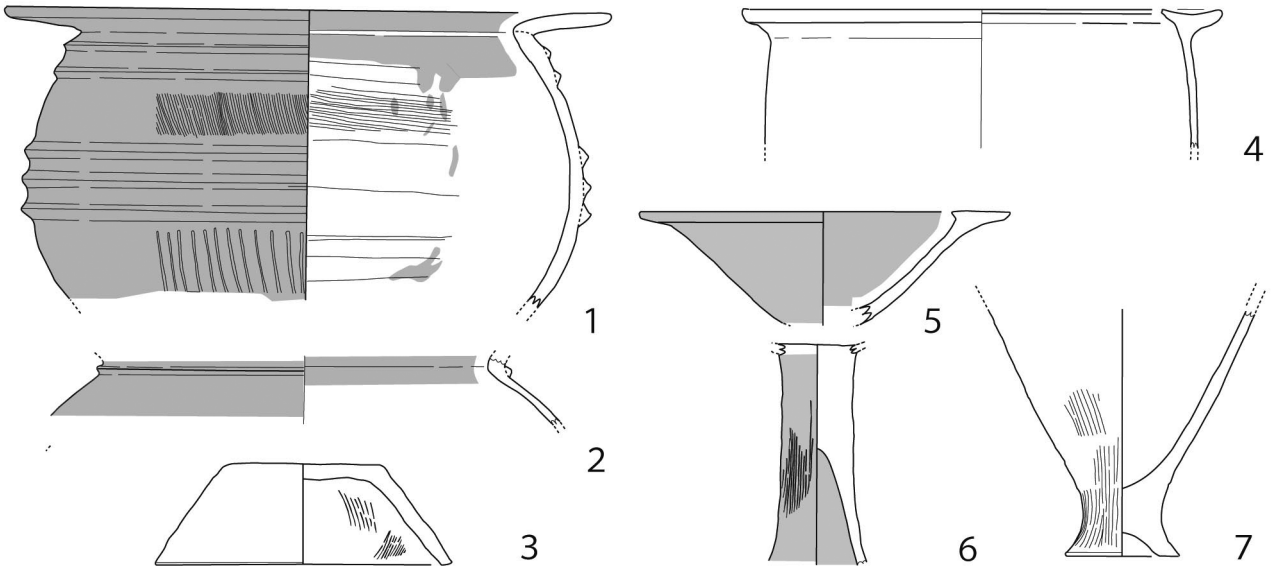



（Fig. 9）土坑 S-015 出土遺物

（PL 1）土坑 S-015 出土獣骨

**土器集積 S-006**

土器集積 S-006 の出土遺物は弥生土器の壺（1）（2）･甕（7）･高坏（5）（6）･器台（3）である。壺や高坏（1）（2）（5）（6）には赤彩が施されている。このうち、1の壺は赤色顔料を塗布した後に磨きを施した土器である。



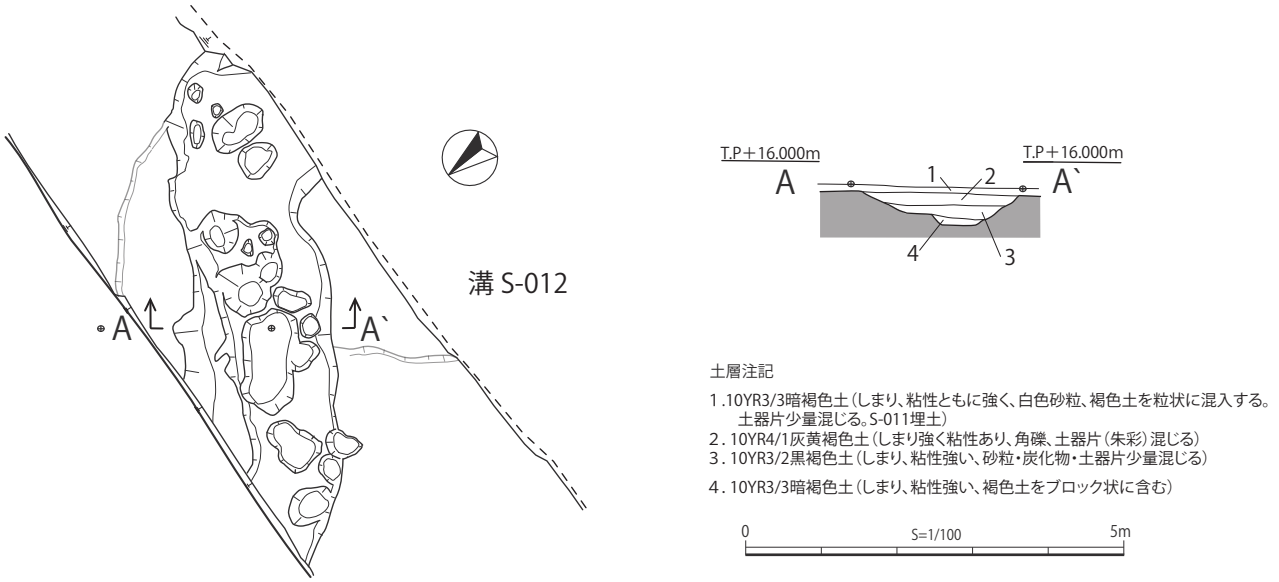

（Fig.10）土器集積 S-006 出土遺物

**竪穴建物 S-020**

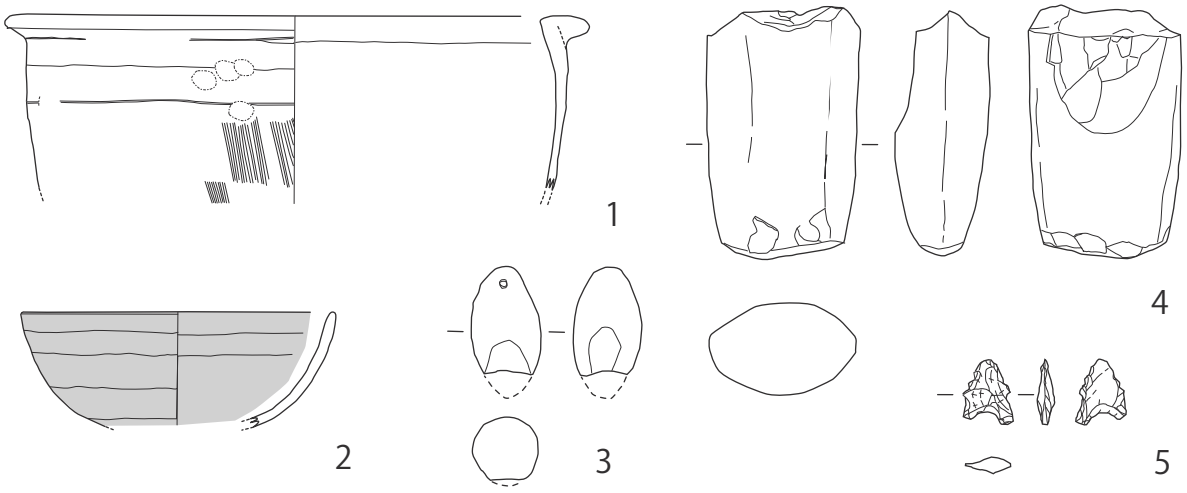
調査区中央より西側に位置する竪穴建物で方形の形状を呈しており、径が 2.2m でわずかに隅丸の形状を呈している。遺構の上部は後世の開発などにより大きく改変を受けており、詳細な形状は不明である。ピットや炉といった遺構は特に確認されていない。

**溝状遺構 S-012**

調査区中央付近に位置する遺構で、北西から南東方向へ延びており、断面は船底形の形状を呈している。埋土は 10YR 3/2 や 10YR 3/3 黒褐色粘土で粒子の細かい粘土で構成されており、ラミナは見られない。これは水の流れが常になく、ヘドロ状に堆積していることを示している。




（Fig.11）溝状遺構 S-012 平面図・断面図（1/100）



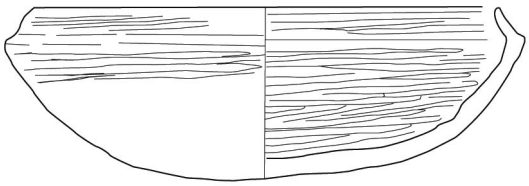

（Fig.12）溝状遺構 S-012 出土遺物

溝状遺構 S-012 の出土遺物は弥生土器（1）と（2）・土製品（3）・磨製石器 ( 4）・打製石鏃（5）で構成されている。弥生土器の甕は体部に一条の沈線が施されている。鉢は赤色顔料が両面に施されている。土製品には紡錘型土弾が出土している。長さ 3.0㎝、幅 1.8㎝である。磨製石器（4）は福岡県今山産の玄武岩製の石斧で、打製石鏃は黒曜石製である。

**ピット S-009**

ピット S-009 は竪穴建物 S-010 に対して上面から切り込んでいる遺構である。大きさは長径 60㎝短径 40㎝程の楕円形である。ピットは周辺から多数検出しているが、堀立柱建物として確認することはできなかった。遺構から土師器の模倣坏身が出土している。復元口縁が 12.3㎝で、口縁部の立ち上がりが低いといった特徴がある。

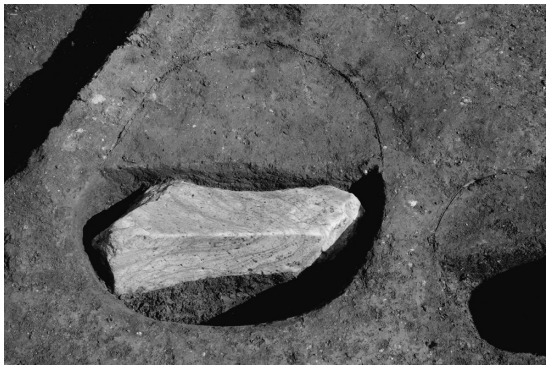
（PL ２）ピット S-009 遺物出土



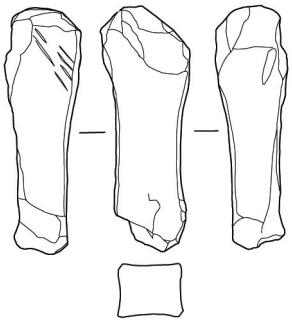
（Fig.13）ピット S-009 出土遺物（S=1/3）

**ピット S-023**

ピット S-023 は調査区東端に存在し、竪穴建物 S-013 と重複する遺構である。周囲に多くのピットが検出されていることから、単独の遺構ではなく、別の遺構の可能性も考えられるが、調査区外へ広がるため詳細は不明である。ピットから三面に顕著な使用痕がある天草産砂岩製の大型砥石が出土している。



（PL ３）ピット S-023 遺物出土

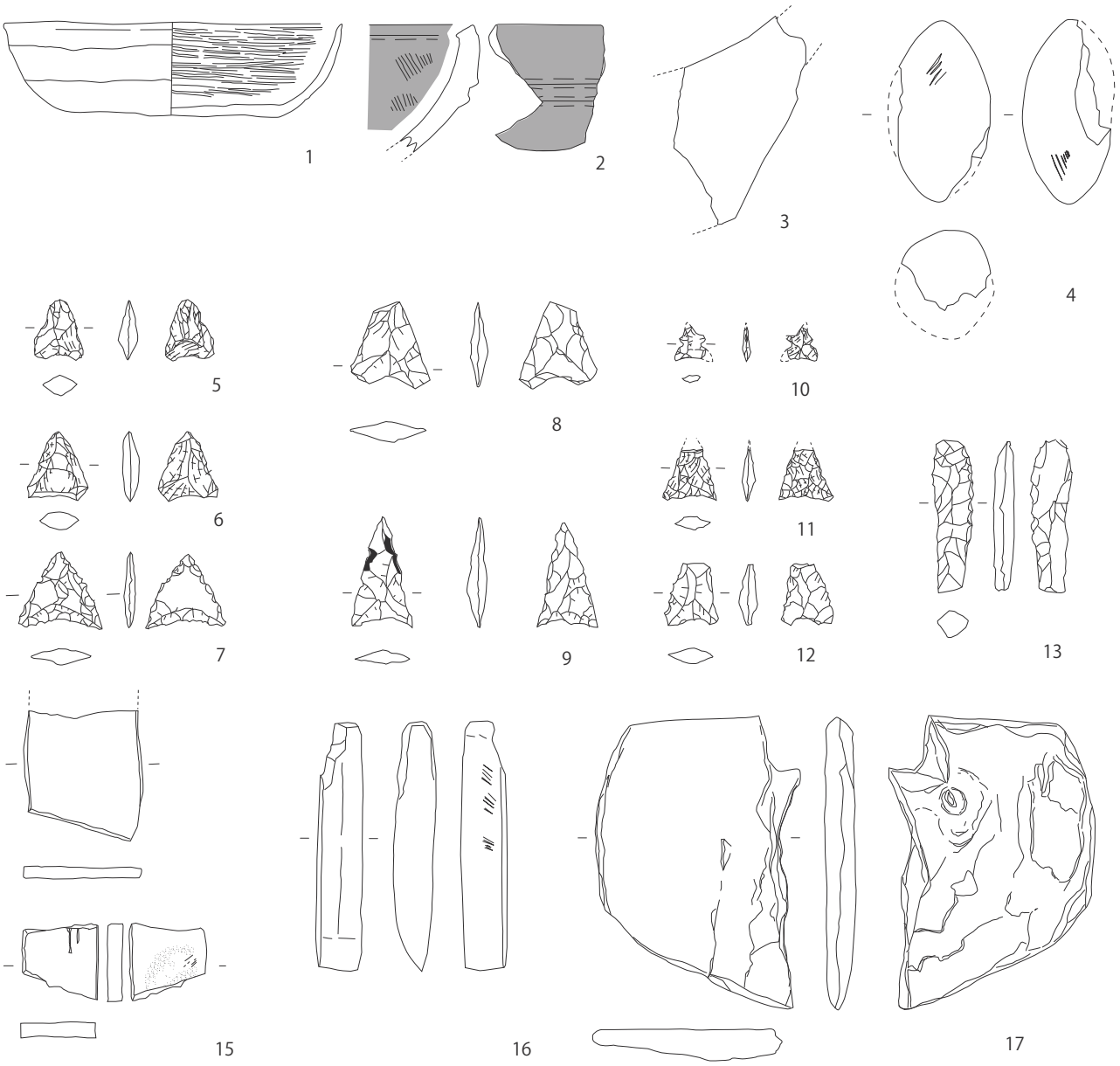


（Fig.14）ピット S-023 遺物（S=1/4）

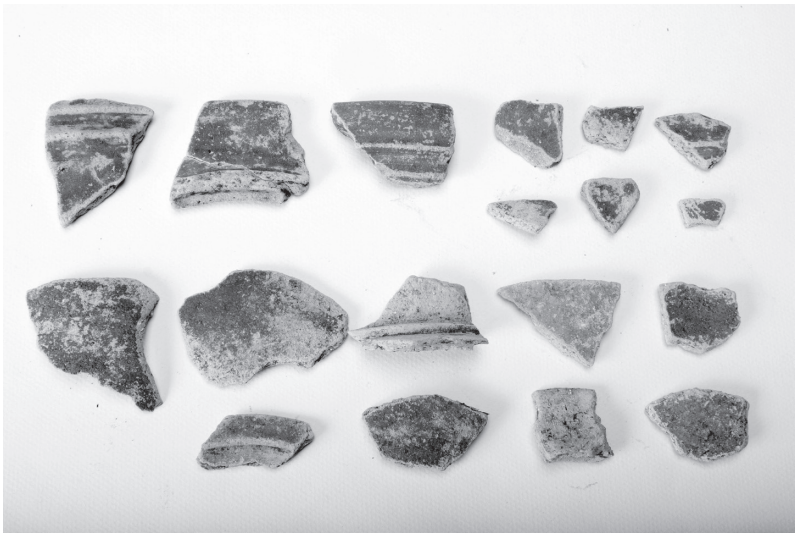
## 第３節　包含層出土遺物について

今回の調査で表土から包含層内にかけて数多くの遺物が出土した。構成される遺物は土師器（１）・弥生土器（２）・土製品（３）（４）・石器（５から 11）・磨製石器（13）（14）・石製品（12）である。包含層の中に弥生土器と古代の土師器も混じって出土している。このことから周辺では大規模な遺跡の整地が行われたと考えられる。

弥生土器には赤色顔料が施されている遺物が多くみられ、細片での出土が多い。実測ができない細片遺物については PL ４の写真で紹介する。特筆するものとして土製品の紡錘型土弾や砥石などの遺物が出土している。




（Fig.15）包含層出土遺物



（PL 4）包含層出土赤彩土器

## 土器・土製品

| 挿図 | 番号 | 遺構番号 | 層位等 | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 色調 | 内面 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Fig6 | 6-1 | S-013 | S-013 | 甕 | 24.4 | - | (11.0) | ナデ、一部不明 | ナデ | 10YR6/2 灰黄褐色 | 5YR6/4 にぶい橙色 | 2㎜以下の白色砂粒を多く含む | |
| Fig6 | 6-2 | S-013 | 上層 | 壺 | 25.6 | | (6.6) | ハケ・ナデ | 横ナデ | 5YR5/6 明赤褐色 | 5YR5/6 明赤褐色 | 白色砂粒を多く含む | |
| Fig6 | 6-4 | S-013 | 柱穴内 | 紡錘型土弾 | - | - | 4.5 | ナデ | — | 2.5Y8/3 淡黄色 | — | 赤褐色粒・白色砂粒を含む | 一部欠損、黒斑あり |
| Fig8 | 8-1 | S-010 | | 甕 | 18.6 | - | (11.3) | ハケ、ナデ | ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | 雲母・角閃石・白色砂粒を含む | 一部黒斑あり |
| Fig8 | 8-2 | S-010 | 柱穴内 | 甕 | 34.4 | - | (18.0) | ハケ、ナデ | ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 2㎜以下の白色砂粒を含む | 沈線一条あり |
| Fig8 | 8-3 | S-010 | 床上 | 高坏 | 16.9 | - | 3.8 | 口縁部は指圧後にナデ | ナデ後、ミガキ | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 角閃石、石英、雲母を含む | 一部表面剥離 |
| Fig8 | 8-4 | S-010 | 床上 | 甕 | 21.6 | - | (20.9) | ハケ後ナデ | ナデ | 10YR4/2 灰黄褐色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 角閃石・白色砂粒を含む | 外面にスス付着 |
| Fig8 | 8-5 | S-010 | 下層 | 甕 | - | 6.4 | (6.1) | 摩耗のため不明、指圧痕 | ナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 雲母・白色砂粒を含む | 二次焼成 |
| Fig8 | 8-6 | S-010 | 上層 | 器台 | 12.5 | 13.0 | 14.9 | ハケ後ナデ | ナデ | 10YR6/6 明黄褐色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 石英・雲母を含む | |
| Fig9 | 9-1 | S-015 | 中層 | 甕 | 10.7 | - | 4.1 | ハケ後ナデ | ナデ | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 7.5YR6/4 にぶい橙色 | 石英・角閃石を含む | |
| Fig9 | 9-2 | S-015 | 中層 | 甕 | - | 7.6 | (4.6) | ナデ、摩滅のため不明 | 工具痕 | 5YR4/6 赤褐色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 粗い砂粒、角閃石を含む | |
| Fig9 | 9-3 | S-015 | 上層 | 壺か | - | 7.6 | (4.6) | ミガキ | ナデ | 10YR6/6 明黄褐色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 石英・雲母を含む | 黒斑あり |
| Fig10 | 10-1 | S-006 | 北側断面 | 甕 | 32.0 | - | (15.7) | ナデ、ハケ、ミガキ | ハケ、ナデ | 10YR7/4 にぶい黄橙色　2.5YR4/6 赤褐色 | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | 長石、角閃石、雲母少量含む | 丹塗磨研、胴部に暗文 |
| Fig10 | 10-2 | S-006 | 一括 | 壺 | - | - | (3.7) | ナデ | ナデ | 7.5YR7/6 橙色 | 7.5YR7/6 橙色 | 白色砂粒、雲母を含む | 丹塗土器 |
| Fig10 | 10-3 | S-006 | 中層 | 器台形土器 | 8.4 | 15.8 | 5.3 | ナデ | ハケ、ナデ | 10YR8/4 浅黄橙色 | 10YR8/4 浅黄橙色 | 砂粒少量、雲母・角閃石含む | 内面は調整粗いため、この上下と判断。黒斑あり。 |
| Fig10 | 10-4 | S-006 | 中層 | 甕 | 25.4 | - | (7.3) | ナデ | ナデ | 10YR8/4 浅黄橙色 | 10YR8/4 浅黄橙色 | 白色砂粒、雲母、角閃石含む | |
| Fig10 | 10-5 | S-006 | 中層 | 高坏 | 19.8 | - | (6.0) | ナデ | ナデ | 10YR8/4 浅黄橙色 | 10YR8/4 浅黄橙色 | 白色砂粒、雲母、角閃石含む | 丹塗土器 |
| Fig10 | 10-6 | S-006 | 中層 | 高坏 | - | - | (11.7) | ハケ、ナデ | ナデ | 10YR 7/4 にぶい黄橙色 | 10YR 7/4 にぶい黄橙色 | 石英・雲母、角閃石含む | 丹塗土器 |
| Fig10 | 10-7 | S-006 | 中層 | 甕 | - | 6.0 | (13.0) | ハケ、ナデ | ナデ | 明黄褐 (10YR7/6) | 灰黄褐色 (10YR4/2) | 白色砂粒、雲母を含む | |
| Fig12 | 12-1 | S-012 | 3 層 | 甕 | 15.6 | - | (9.2) | ハケ、ナデ | ナデ | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 2㎜以下の白色砂粒少量含む | 沈線一条 |
| Fig12 | 12-2 | S-012 | 2 層 | 鉢 | 8.4 | - | (6.1) | ナデ | ナデ | 10YR 7/3 にぶい黄橙色 | 10YR 7/3 にぶい黄橙色 | 2㎜以下の白色砂粒を含む | 内外とも赤色顔料 |
| Fig12 | 12-3 | S-012 | 2・3 層 | 紡錘型土弾 | - | - | 3.0 | ナデ | — | 10YR 7/4 にぶい黄橙色 | — | 石英・雲母を微量に含む | 黒斑あり、孔は貫通しない |
| Fig13 | 13-1 | S-009 | 2 層 | 坏身 | 12.3 | - | 4.5 | ナデ、ミガキ | ナデ、ミガキ | 7.5YR7/6 橙色 | 7.5YR7/6 橙色 | 1㎜以下の白色砂粒を微量含む | 須恵器模倣土師器 |
| Fig15 | 15-1 | 表採 | — | 土師器皿 | 8.0 | 10.4 | 4.4 | ナデ | ミガキ | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 角閃石微量含む | 7Ｃ後半頃の都城系土師器か。見込みにヘラ記号あり。 |
| Fig15 | 15-2 | 表採 | — | 鉢か | - | - | (6.0) | ナデ | ハケ、ナデ | 10YR 7/4 にぶい黄橙色 | 10YR 7/4 にぶい黄橙色 | 石英含む | 丹塗土器 |
| Fig15 | 15-3 | 表採 | — | 器台形？ | - | - | (10.0) | ナデ | ナデ、一部に工具痕あり | 10YR 7/2 にぶい黄橙色 | 10YR 7/2 にぶい黄橙色 | 白色砂粒多量、雲母少量含む | 頸部復元径 20㎝前後か |
| Fig15 | 15-4 | 包含層 | — | 紡錘型土弾 | - | - | 4.4 | ナデ | — | 2.5Y5/2 暗灰黄色 | — | 白色砂粒、茶褐色粒少量含む | 一部欠損 |

## 石器・石製品

| 挿図 | 番号 | 出土地点 | | 種別 | 法量 (㎝) | | | 重さ | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構番号 | 層位等 | | 長さ | 幅 | 厚さ | (g) | | |
| Fig6 | 6-3 | S-013 | 床直上 | 勾玉 | 1.5 | 0.5 | 0.4 | 0.62 | クロム白雲母 | 形状の時期は縄文後期 |
| Fig6 | 6-5 | S-013 | 上層 | 片刃石斧 | (5.8) | (1.2) | (1.4) | 14.90 | 層灰岩 | 両端欠損 |
| Fig6 | 6-6 | S-013 | 柱穴内 | 打製石鏃 | 4.3 | 2.1 | 0.7 | 4.49 | 安山岩 | 平基無茎鏃 |
| Fig6 | 6-7 | S-013 | 上層 | 打製石鏃 | (3.3) | 1.8 | 0.6 | 3.20 | 安山岩 | 平基無茎鏃 |
| Fig6 | 6-8 | S-013 | 上層 | 打製石鏃 | (2.4) | 2.3 | 0.4 | 1.25 | 安山岩 | 凹基無茎鏃 |
| Fig6 | 6-9 | S-013 | 下層 | 砥石 | 8.3 | 5.3 | 6.5 | 317 | 砂岩 | 大牟田産砂岩か |
| Fig8 | 8-7 | S-010 | 上層 | 石包丁 | (9.9) | 5.0 | 0.6 | 38.40 | 赤紫色泥岩 | 立岩産 |
| Fig8 | 8-8 | S-010 | 下層 | 石錘（天秤錘） | 5.4 | 3.8 | 3.4 | 128.0 | 滑石 | 欠損部あり |
| Fig8 | 8-9 | S-010 | 下層 | 片刃石斧 | 5.6 | 2.3 | 0.8 | 14.52 | 層灰岩 | 片端欠損 |
| Fig8 | 8-10 | S-010 | 中層 | 打製石鏃 | 2.4 | 1.5 | 0.6 | 1.2 | 黒曜石 | いわゆるアメリカ式石鏃 |
| Fig8 | 8-11 | S-010 | 床面 | 磨製石剣 | (15.1) | 4.1 | 0.8 | 40.79 | 堇青石ホルンフェルス | 土坑墓内出土の可能性あり |
| Fig9 | 9-4 | S-015 | 上層 | 片刃石斧 | (5.2) | 1.9 | 0.7 | 11.19 | 層灰岩 | |
| Fig12 | 12-4 | S-012 | 上層 | 磨製石斧 | (13.3) | 7.9 | 5.0 | 840.12 | 玄武岩 | 今山産、上部欠損 |
| Fig12 | 12-5 | S-013 | 上層 | 打製石鏃 | 1.7 | 1.4 | 0.4 | 0.75 | 黒曜石 | 凹基無茎鏃、基部欠損 |
| Fig14 | 14-1 | S-023 | 下層 | 砥石 | 32.5 | 11.5 | 6.5 | 3670.0 | 砂岩 | 天草産、使用痕 4 面あり |
| Fig15 | 15-5 | — | 包含層 | 打製石鏃 | 2.9 | 2.3 | 1.9 | 4.99 | 安山岩 | 凹基無茎鏃の未成品か |
| Fig16 | 15-6 | — | 包含層 | 打製石鏃 | 3.2 | 2.9 | 0.8 | 6.43 | 安山岩 | 未成品か |
| Fig17 | 15-7 | — | 包含層 | 打製石鏃 | 1.8 | 2.0 | 0.4 | 0.67 | 黒曜石 | 凹基無茎鏃 |
| Fig18 | 15-8 | — | 包含層 | 打製石鏃 | (2.0) | 1.9 | 0.5 | 0.74 | 安山岩 | 凹基無茎鏃、先端欠損 |
| Fig19 | 15-9 | — | 包含層 | 打製石鏃 | 2.6 | 1.5 | 0.4 | 0.88 | 安山岩 | 凹基無茎鏃 |
| Fig20 | 15-10 | — | 包含層 | 打製石鏃 | (1.6) | (1.5) | 0.3 | 0.68 | 黒曜石 | 異形石鏃 |
| Fig21 | 15-11 | — | 包含層 | 打製石鏃 | (2.4) | 2.5 | 0.7 | 2.58 | 黒曜石 | 先端欠損 |
| Fig22 | 15-12 | — | 表採 | 打製石鏃 | (1.4) | 1.3 | 0.4 | 0.75 | 安山岩 | 凹基無茎鏃 |
| Fig23 | 15-13 | — | 包含層 | 石錐か | 3.6 | 0.9 | 0.6 | 2.49 | 安山岩 | |
| Fig24 | 15-14 | — | 表採 | 砥石 | (6.1) | 5.6 | 0.6 | 43.0 | 砂岩 | |
| Fig25 | 15-15 | — | 包含層 | 砥石 | (3.6) | (3.6) | (0.6) | 18.9 | 砂岩 | |
| Fig26 | 15-16 | — | 包含層 | 片刃石斧 | (5.9) | 1.1 | 0.9 | 11.2 | 層灰岩 | 一部欠損 |
| Fig27 | 15-17 | — | 包含層 | 未成品 | (7.0) | 4.9 | 0.7 | 39.76 | 緑色片岩か | |

(Table 1)　遺物観察表

# 第4章　ま　と　め

今回の調査において、年の神遺跡が様々な時代の生活痕跡を残す複合遺跡であることが確認できた。出土遺物から少なくとも弥生時代中期初頭から弥生時代後期前葉に至るまで竪穴建物が複数検出された。遺構から須恵器の模倣土師器の坏身や包含層から古代の坏が出土していることから、人々が連続して居住している可能性が高くなった。

調査区中心部付近において、存続時期がはっきりとしないが、溝状遺構を検出した。周辺では支石墓や甕棺を多数確認しており、隣接地付近では支石墓と思われる巨石が出土したとの地元の古老の証言があることから、周溝墓の存在も考えられる。しかし、調査区が狭小であるため、溝状遺構の性格が集落を分ける溝なのか、墓域などの区画溝や周溝なのか、今回の調査では断定できなかった。

また、ピットを多数検出しており、その中に古代の遺物が含まれていることから、古墳時代や奈良時代の遺構面が存在している可能性は高い。

遺物については、竪穴建物 S-010 の出土遺物の中から円柱形石製品が出土したことはすでに述べている。この中で天秤権の可能性について触れてみる。

出土した円柱形石製品について武末純一氏に石製品を実見していただき、その中で天秤権の見分け方についてご教示を賜った。特徴として、上下の角は欠けないように面取りを施し、体部にも転がらないように面取りを丁寧に施している。

このことから一部欠損しているが、その条件にあてはまるものとして天秤権であると判断した。時期については、共伴している土器とその他の出土例から弥生時代中期後半と比定している。なお、天秤権は重量を正確に把握する必要があるため、欠損部分の容積を復元し、重量を特定するように指摘を受けている。

なお九州の出土例は福岡県東小田峯遺跡・那珂遺跡・須玖遺跡群・佐賀県本行遺跡で確認され、熊本県では初めての事例である。このことから集落は何かしらの交易拠点であった可能性があり、年の神遺跡の性格を示している。今後の調査に期待したい。

**参考文献**


蓜父雅史　2017　玉名市文化財調査報告第 33 集『玉名市内遺跡調査報告書 ix』「年の神遺跡」玉名市教育委員会

森本晋　　2012　「弥生時代の分銅」『考古学研究 59 － 3』考古学研究会

中尾智行　2015　「弥生分銅の発見とその意義」『計量史学研究』　一般財団法人日本計量史文化研究会第 76 集

東森晋　　2018　「島根県の弥生時代天秤権類例」『島根考古学会誌』　島根考古学会

中尾智行　2018　「弥生時代の計量技術　－畿内の天秤権－」『考古学研究 65 － 2』考古学研究会

輪内遼　　2020　「近畿地方の権衡資料－弥生時代例の再検討―『平成 30 年度九州考古学会総会』九州考古学会

武末純一　2020　「日韓の権」『新・日韓交渉の考古学－弥生時代－（最終報告書　論考編)』新・日韓交渉の考古学－弥生時代－研究会　新・韓日交渉の考古学－青銅器～原三国時代－研究会

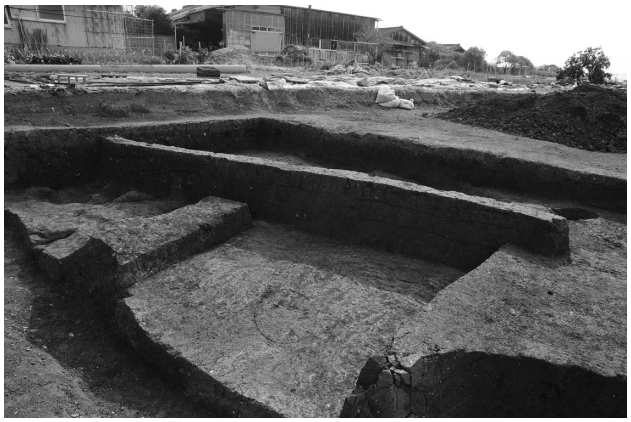
葉山茂英　2020　「考古遺物から見た弥生時代の天秤」『考古学研究 67 － 1』考古学研究会

# 写真図版

（PL 5）調査区全景

（PL 6）竪穴建物 S-013 検出

（PL 7）竪穴建物 S-013 検出



（PL 8）竪穴建物 S-013 断面

（PL 9）竪穴建物 S-013 完掘

（PL10）竪穴建物 S-014 検出

（PL11）竪穴建物 S-014 検出

（PL12）竪穴建物 S-010 遺物出土

（PL13）土器集積遺構 S-006 遺物出土

（PL14） 土坑 S-015 断面

（PL15） 土坑 S-015 完掘

（PL16） 竪穴建物 S-010 完掘

（PL17） 竪穴建物 S-010 完掘

（PL18） 溝状遺構 S-012 検出

（PL19） 溝状遺構 S-012 完掘

（PL20） 作業風景遺構検出

（PL21） 作業風景遺構掘削

（PL22）土器集積遺構 S-006 出土遺物

（PL23）竪穴建物 S-010 出土遺物

（PL24）竪穴建物 S-013 勾玉

（PL25）竪穴建物 S-010 磨製石剣

（PL26）竪穴建物 S-010 石権（天秤権）

（PL27）ピット S-023 出土砥石

（PL28）紡錘型土弾

（PL29）ピット S-009 模倣土師器

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| 遺　跡　名 | 年の神遺跡 |
| ふりがな | としのかみいせき |
| 副　書　名 | 玉名市岱明町野口における宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ名 | 玉名市文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第 52 集 |
| 編著者名 | 石松　直　　薗父雅史 |
| 編集機関 | 玉名市教育委員会 |
| 所　在　地 | 〒 865-8501　熊本県玉名市岩崎 163　TEL：0968 － 75 － 1136　FAX：0968 － 75 － 1138 |
| 発行年月日 | 2023 年 3 月 17 日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村コード | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 発掘調査期間 | 調査面積 | 発掘要因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年の神遺跡 | 熊本県玉名市岱明町野口 2466-1 | 43206 | 429 | 32° 55′ 17″ (32.92149083) | 130° 31′ 15″ (130.520920) | 20220201 ～ 20220228 | 88.8㎡ | 宅地造成 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 突起事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 年の神遺跡 | 集落 | 弥生時代 | 竪穴建物<br>溝<br>土坑 | 弥生土器<br>磨製石剣<br>勾玉<br>石権（天秤権） | 竪穴建物跡床面から磨製石剣と勾玉と石権（天秤権）が出土した。 |

| | |
|---|---|
| 要　約 | 年の神遺跡は縄文時代からの複合遺跡で、今回の調査で弥生時代中期の竪穴建物を複数検出した。竪穴建物跡から勾玉や石権（天秤権）、磨製石剣や赤彩土器を多数出土した。 |


玉名市文化財調査報告　第 52 集

**年の神遺跡**

令和 5 年 3 月 17 日発行

編集発行　玉名市教育委員会

〒 865-8501　熊本県玉名市岩崎 163

TEL　0968-75-1136

印刷・製本　株式会社　有明印刷

〒 865-0022　熊本県玉名市寺田 123-1

TEL　0968-73-2055